

教 育 委 員 会 定 例 会 議 事 日 程

令和7年1月10日（金）午前10時00分

- 1 会議録の承認
- 2 一般報告
横浜教育データサイエンス・ラボの開催報告について
- 3 審議案件
教委第42号議案 横浜市学校保健審議会委員の任命について
教委第43号議案 横浜市学校保健審議会臨時委員の任命について
- 4 その他

令和7年1月10日

教育委員会定例会 一般報告

1 市会関係

2 市教委関係

(1) 主な会議等

○12/20 第5回中学校給食メニューコンクール表彰式

○12/23 令和6年度 横浜市総合教育会議

(2) 報告事項

○横浜教育データサイエンス・ラボの開催報告について

3 その他

横浜の挑戦！ 新たな「教育データ」の創出

横浜教育データサイエンス・ラボ が始動しました

横浜市では、児童生徒約26万人の教育ビッグデータを活用し、教員、大学、企業との共創によりデータ分析を行い、エビデンスに基づく学びの実現や、教育内容の充実を図ることを目指しています。

(※「教育データ」とは、教育的な課題を解決するための、エビデンスに基づく手立てとそれにつながる客観的なデータと考えています。)

◆ 横浜教育データサイエンス・ラボ(Data Science Lab)

- 若手から中堅の**教職員**、専門的な知見をもつ**大学研究者**、データの分析・加工の専門的な技術をもつ**企業**で形成される研究の場
- 教員の課題感や求める効果を出発点とし、大学や企業の知見やノウハウを組み込んで研究をする
- 児童生徒約**26万人の教育データ**を分析し、**教職員や子どもたちに有効な「教育データ」**を提供する



令和6年度 横浜教育データサイエンス・ラボ 開催報告

第1回 令和6年9月20日(金)

第2回 令和6年11月21日(木)

【テーマ】

第1回 「算数科・数学科の学力と意欲の関係」

第2回 「子どものこころの変化をとらえ、安心な学びの環境をつくる『横浜モデル』の開発」

【参加者】延べ人数

教職員	33名
大学関係者	33名(5名)
企業	77名(54名)
合計(事務局を除く)	143名(59名)
()内はオンライン参加人数	



【グループディスカッションでの意見】

【第1回】

- ・小学校の算数から中学校の数学になることで、伸び悩む子どもが多いという傾向について、子ども自身が自分のつまづきを理解できていないこともあるのではないかと。
- ・子どもたちが学習内容の意味をきちんと理解できるような学習活動につなげることが大切だと思う。
- ・デジタルデータの活用により学習の履歴を可視化したり、フィードバックしたりできるとよい。

【第2回】

- ・こころの健康に関するデータを読み取ることが、質の高い教育の実現につながる。
- ・子どもたちのSOSをキャッチする方法が増えていくことは非常によい。
- ・現場だけで対応することが難しくなっている。ぜひ医療と連携し子どもたちのためになっていけたらよい。